

# 西興部村

面積：308.12km<sup>2</sup>  
 人口：1,218人（男588、女630）  
 （平成16年3月31日現在）  
 世帯数：650世帯（平成15年9月30日現在）  
 町の木：イチイ（オンコ）  
 町の花：エゾムラサキツツジ  
 町名の由来：「興部」はアイヌ語の「オウコツトベ」、  
 「川尻の合流したところ」を意味し、  
 分村して西の字を冠する。  
 ホームページ：<http://www.vill.nishiokoppe.hokkaido.jp>  
 メールアドレス：[webmaster@vill.nishiokoppe.hokkaido.jp](mailto:webmaster@vill.nishiokoppe.hokkaido.jp)



西興部村産業課商工係

主事 内田達也

## 道の駅・にしおこっぺ<sup>かむ</sup>花夢 花に彩られる夢の施設

### 観光資源としての 花への取り組みをここからも

西興部村は北海道で最も人口の少ない村の仲間入りをしています、「小さくても輝く村づくり」を村民みなで実践しているたいへん魅力ある村でもあります。

外観の色をオレンジで統一した「夢」の文字がつく施設が村内に4つあり、その一つが道の駅・にしおこっぺ<sup>かむ</sup>「花夢」です。国道239号沿いにあり、季節の花約50種が美しく咲き誇る6ヘクタールのフラワーパークは、訪れる人の目と心をなごませると好評です。中でも真っ赤なハーブ「モルナダ」を植えた50メートルのボーダーガーデンは、北海道でありながらもヨーロッパの雰囲気を感じさせるほど。現在リニューアル工事を行っていて、来年には本格的なイングリッシュガーデンとして生まれ変わる予定です。ガーデニング熱がますます高まる傾向にあることから、これまで以上に来訪者が増えるのではと期待されています。きたる7月30、31日には「にしおこっぺ花夢まつり」も開催。花に関するイベントや花の苗の販売など、花をテーマにした道の駅らしい内容が盛りだくさんです。

同村産業課商工係の内田達也主事は「近隣の滝上がシバザクラ、上湧別はチューリップで有名です。このエリアに来ればいろいろな花が楽しめるといった、フラワーロード的な意味合いが深まれば花夢の存在はさらに観光に役立っていくことでしょう。最近では、例えばシーニックバイウエ

イのルートにラベンダーで全国的にも知られる大雪・富良野の『花人街道』が取り上げられたり。また花を観光資源として捉え、地域の花活動を応援する『花大陸Hokkaido』の行事の一環として、『きよさと国際花サミット2005』が開催されたり。高橋はるみ知事が花に力を入れているという流れからも、花夢は村の活性化を支える重要な位置にあると考えます」と、言葉にも力が入ります。

このほか館内には木製の笛が組み込まれた国内唯一のからくりオルガン「音・木・林」が優しい音色を奏で、「また聴いてみたくなって訪れました」というリピーターもいるそうです。体験工房ではドライフラワーや押し花もでき、指導員も付きます。特産品のシイタケやドナルドソンニジマスの製品を扱うコーナーもあり、18ホールのパークゴルフ場では健康づくりを目指す老若男女が青空のもとさわやかな汗を流しています。



からくりオルガン「音・木・林」

## 夢がつなく 村の豊かな暮らし

では、ほかの3つの「夢」の施設はというと、まず森の中のホテル「森夢」。天然鉱石光明石を源泉とする大浴場もありサウナやバイブラスなどを整えます。レストランでは低脂肪でヘルシーと注目を集めている鹿肉料理がそろい、鹿肉のほかギョウジャニンニクやシメジなど地場産品を入れた村長考案のピリ辛ラーメン「村長ラーメン」が評判です。

木のぬくもりに触れられる森の美術館「木夢」は、子供たちに大人気。音楽と人形がファンタジーの世界を繰り広げるミュージカルを上演しており、木の砂場や木製三輪車などで遊べる部屋もあります。工作体験では作る喜びを実感し、「帰りたくない」と言い出す子供も中には。もちろん大人にとっても楽しさあふれる施設です。

さらに農水省の田園マルチメディアモデル整備事業の指定を受けた同村は、全国の自治体では初めて、全世帯と公共施設をつなぐ光ファイバー網を平成14年3月に完成させました。こうした背景からマルチメディア館「IT夢」が生まれ、動物ロボットもある体感ゲームコーナー「冒険の森」を設け、インターネットやパソコンが使用できるようになっています。村のテレビ局NCN（西興部村コミュニケーションネットワーク）を自主放送しており、在宅高齢者の健康管理を行う高齢者福祉サービス、農業気象情報などを提供する農業サービスなど、最新の技術で村民の豊かな生活をサポートしています。

## 小さくても魅力は どこにも負けない

都会の企業戦士たちの中には定年後「自然豊かな場所で、農業をやってみたい」という希望を持つ人も少なくなく、実際、テレビのニュースや新聞などで、こうした人達が紹介されるようになりました。これから団塊の世代が大量に退職を迎え、田舎暮らしを目指す人が増えるとも予測されています。

定住するまでの決断はできないけど、試しに住んでみてそれから答えを出したいという人には「西おこっぺ体験農園コテージ」がお勧めです。毎年5月から11月まで開放されていて、使用料は



1ヵ月あたり個人で4万円、団体で5万円。キッチン、浴室、水洗トイレはもちろん、冷蔵庫や食器類も完備。村のLANに接続するとインターネットが無料で接続できます。農園は1区画あたり50平方メートルで年間1500円。2区画以上でも借りられます。

もちろん手つかずの自然が残る恵まれた環境にあることも特筆すべきことで、村のどこからも望める標高1142メートルのウエンシリ岳はエゾマツやトドマツをはじめ、標高1100メートルを越えると千島桜や高山植物が見られ、登山者の憧れの山の一つです。行者の滝、赤岩の滝、黒岩の滝など滝も多く、森の中に響きわたる荘厳な滝の音に身をゆだねれば繁雑な毎日ともしばし決別できそう。道内有数の日本庭園「興楽園」は8000平方メートルの広さを誇り、樹齢数百年とも言われているイチイほか数々の樹木が茂り、「興楽庵」と「興楽亭」の2つの趣ある茶室もあります。

内田主事は「車で通りすぎるだけでは、西興部村の魅力はわかりません。まずは花夢に立ち寄っていろいろな情報を得てください。自然を楽しんだり、おいしいものを味わうには情報収集が大事ですからね。時間があればほかの3つの夢の施設も訪ねていただき、より西興部村の魅力に親しんでいただければと思います。小さな村ではありますが、とても大きな喜びと出会える、きっとまた足を運びたくなる、そんな村だと自信を持って言えます」とピーアールしていました。